

## 第4回 著作権教育実践応募事例に関する選考委員コメント

青森県 藤崎町立藤崎中学校 (中学3年生)

オンリーワン・マグカップの制作 ~ 著作権を学びながら ~

- ・中学生の特性を理解し、上からの視線ではなく「こどもの目線に立つ」た指導を「ねらい」としたことはすばらしい。さらに、学習指導計画の「展開」で、改変されたデータを送付して、生徒の気持ちを発表させることで、「創作者の気持ちを理解させる」という方向の指導に賛意を示したい。
- ・著作権の制限規定を、「自由利用マーク」とフリーソフトとシェアウェアの違いなどからアプローチした授業は大変興味深い。さらに子どもの目線から、同一性保持権を明確に意図的に授業で取り扱ったということも評価できる。
- ・マグカップ制作という、体験活動を取り入れている点は良い。中学3年に扱う内容としては、やや物足りない印象を受ける。指導の手立てとはいえ、生徒の承諾を得ずに教師が作品を改変してしまうことは、教育的ではないと感じた。
- ・狙いはよいが、実践のプロセスの記載がない。「生徒の予想される反応」= 成果になっている。実践事例だから、プロセスでの教師の苦労した場面や生徒のきめ細かな(予想外の)反応なども欲しい。
- ・作品(マグカップ)の制作活動の過程で、事前学習として著作権やオリジナリティ(独自性)について指導することは効果的である。
- ・実際の教材作りが含まれており、具体性があり、生徒に著作権学習が浸透すると考える。生徒の目線で考える著作権教育は、生徒の実態を踏まえていて、今後の取組みが期待される。問題になった実例を挙げ、生徒により深い問題意識をもたせることが可能になっている。無断使用にならないためには?、使用しても問題ない場合は?、という点についてもほりさげられていることがよい。
- ・中学校での著作権教育は、知識や法律の伝達になりがちだが、この実践はマグカップの制作を通して、主体的に著作権を考える学習になっている。ただ、教師が生徒の作品を改ざんするのは適切か疑問が残る。
- ・『著作権を守る』という意識の向上に取り組む姿勢に加えて、授業を通じて著作権の重要性を認識させていくことを心がけている点を評価。
- ・切り口、扱う内容など適切である。